

## アーティストも観客も一体となって跳びはねる！『Band On The Run!』開催

関西のプロモーター、清水音泉の主催イベント『Band On The Run!』が大阪城夢祭～LIVE GUMBO PARK～で開催されました。

まずはオープニングから重低音サウンドでぶっ飛ばしたネクライトーキー。ボーカル&ギターのもっさは「朝早起きしてホテルで入る露天風呂ぐらい気持ちいい！」とコメント。とにかく楽しそうなメンバー全員の笑顔が印象的でした。薄曇りだった空がやがて強い日差しに変わり、会場はそれぞれがお目当てのバンドタオルを頭や首の日除けがわりにする姿が見られました。



そんななか現れたニガミ 17才は、とにかくサービス精神旺盛。曲進行を間違えたというまさかのハプニングさえも笑いに置き換えてしまったアクトとなりました。

続いてお目見えしたスリーピースロックバンド、SAKANAMON は終始パワフルで疾走感のあるライブを展開。愉快的カバー曲から胸アツの新曲までを幅広く楽しませてくれました。

秋らしい風が吹くようになった頃に満場の拍手で迎えられたのは、黄色のツナギと黒のバイザーで現れた POLYSICS の3人。25周年ツアー真っ最中の彼らは、手を振り拳を上げて会場の一体感を盛り上げます。生声が欲しいとの彼らの熱い思いに応えた、観客の「TOISU!」も印象的でした。



日差しも穏やかになった頃に登板したオルタナティブロックバンド、Helsinki Lamda Club

は「踊っても、寝そべって聴いてもいい天気ですね」と、アッパーな曲からゆるやかな横揺れ系まで、変幻自在な全7曲で会場を盛り上げました。

やがて、出演予定時間の17時前にステージに現れたのはヒトリエ。サウンドチェック…のはずが、そのアツすぎる演奏にジャンプや拳をあげるファンの姿がありました。本来なら大歓声のコール&レスポンスとなる楽曲に、メンバーは「跳びましょう！！」と制限下の新しいライブの楽しみ方もアプローチしてくれました。



そんなヒトリエのシノダさんが「彼ら超かっこいいよ！」と後を託したビレッジマンズストアも、同じくサウンドチェック時から会場は総立ち状態に。本番では絞り出すように「ロックには、それが欠かせないんです」とコールして短くとも熱い歓声を求めています。

ラストは、デビュー33周年ツアーとアルバムを準備していたフラワーカンパニーズ。ベース&リーダーのグレートマエカワが「裸オーバーオール日和(笑)」という快適すぎる環境で、ニューアルバム「ネイキッド」などの楽曲から多幸感あふれる貫禄のパフォーマンスで長尺の野外ライブを見事に締め括ってくれました。

